

にほんごがくしゅうかい あんない 日本語学習会のご案内

にちじ 日時： 10月 1日（水）

10月15日（水）

13:30~15:00

19:30~21:00

ばしょ 場所： 倉吉市人権文化センター

ないよう 内容： 日常生活に必要な日本語を学ぶ

Would you like to learn Japanese with us?
Please feel free to come!



10月 手話教室のご案内



日時： 10月 9日（木） 10:00~11:00

10月23日（木） 10:00~11:00

参加者随時受付中です！お気軽にご参加ください！

◎生活の中で困りのことはありませんか？



一人で抱え込まずに相談してみませんか？
お困りのことがあればお気軽にお越しください。
電話対応もいたします。
※ご相談いただいた内容は秘密厳守いたします。
安心してご相談ください。

◎差別落書きや人権侵害に気づいたら！すぐにお知らせください！

差別発言などの人権侵害や差別落書きは許されない行為です。発見された場合は
倉吉市人権政策課または最寄りの人権文化センターまでご連絡ください。

連絡先： 倉吉市人権政策課 ☎ (0858) 22-8130

倉吉市人権文化センター ☎ (0858) 22-4768

ますな

倉吉市人権文化センターだより

2025年10月1日 発行 No.178 号

発行所：倉吉市人権文化センター

住所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

倉吉市人権教育研究会 会員研修会 共催 部落解放同盟倉吉市協議会

SAYAMA 見えない手錠をはずすまで 上映会&監督トークショー

日時 10月19日（日）13:00 開会（12:30 受付開始）

場所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

狭山事件で逮捕され、無実を訴え続けてこられた石川一雄さんが令和7年3月に亡くなりました。

部落差別により教育を受けられず不当（えん罪）な逮捕に抗うこともできず殺人犯にされ、再審請求を訴え続けておられましたが現在も叶っていません。他のえん罪事件のこともあり、国はようやく再審法の改正に動きはじめました。改めて狭山事件について学び、殺人犯のレッテルを半世紀以上もの間、背負って生きてきた石川さん夫婦。正義とは何か考えてみませんか。

●定員：先着150人

●参加費：無料

●申込み：不要

※会員以外も参加可能

◆お問い合わせ先：

事務局【市役所人権政策課内】

（電話、電子メールでご連絡ください）

電話 0858-22-8130

メール jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

※自然災害等で研修を中止する場合には当日までに倉吉市ホームページでお知らせします。

※手話通訳、場内誘導、座席の確保等について、特別な配慮をご希望の方は、10月3日（金）までにご希望の内容をお知らせください。



金 聖雄（キムソンウン） 監督
1963年大阪市鶴橋生まれ。1993年からフリーランスの演出家としてテレビ番組、ドキュメンタリー映画PR映像に携わる。2013年、Kimoon Filmをスタート。映画作品：アキララブソディ、オレの記念日、獄友、袴田巖 夢の間の世の中、空想劇場、花はんめ 等



8・9月の事業報告



第39回中部地区中学3年生交流会 8/21

「知る・考える・行動する みんなで創る、差別のないあした！」をテーマに、中学3年生交流会を開催しました。地区学習会に参加している生徒及び趣旨に賛同する中学3年生がDVD鑑賞や講演、仲間づくりをとおして同和問題を学びました。

講演会は、「なかまとともに～学べば人は変わる～」と題し行われました。差別やいじめなどに直面した時には「一人じゃない、みんながいるよ」と声を掛けられる人になって欲しいと話され、学び続けること、互いを思いやる心を育てることの大切さを伝えられました。



参加した生徒からは「他校の人と一緒に考える事で視野が広がり、色々なことを知ることができた。」「自分をふり返し、気づかない差別をしないこと、周りで差別がなくなるように行動することを意識していきたい。」などの感想が寄せられました。

今回の交流会での経験を活かし、学校での人権学習のリーダーとして、また、社会に出たときに先頭に立って差別をなくしていくための力を発揮して欲しいと思います。

手話教室 9/11・9/25



手話教室では簡単な手話とジェスチャーを実際の会話をとおして学んでいます。手話を行う際、どうしても難しいと思ってしまいがちです。しかし、日常の中で私たちが自然と使っているジェスチャーを使うことで、よりコミュニケーションの幅が広がっていきます。例えば「良い」を表す手話が分からなくても、うなずいたり、指や手でOKサインを作るなどの工夫で、耳が聞こえる人と聞こえにくい人のコミュニケーションの幅がぐんと広がり、手話へのハードルを下げるができます。

実践的な手話やジェスチャー、実際に耳が不自由な方が困った事などを聞いていく中で、どうすればみんなが暮らしやすいより良い社会になるかを今後も考えていきます。



高齢者の人権について考える ～ 10月1日は国際高齢者デー ～



日本は、平均寿命の伸びや、少子化の傾向に伴い、急速に高齢化が進んでいます。鳥取県では全国に先駆けて高齢化が進んでおり、最新の65歳以上の高齢者人口の割合は33.7%です。(総務省による統計ダッシュボード調査より)

高齢者は、私たちの社会を支え、次世代へと知恵と文化を伝える大切な存在です。長年に渡り社会を支え、文化を築いて来られた人たちが、年齢を理由に社会参加を妨げられたりすることなく、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、みんなで考え、実践していきましょう。

●国際高齢者デーとは…

国際連合は毎年10月1日を国際高齢者デーと定めています。しかし、日本では「敬老の日」があるため、「国際高齢者デー」を知る人はあまりいません。

国際高齢者デーは高齢者の知識、経験、そして貢献に感謝し、その権利や尊厳を守ること、また、差別や虐待の廃絶を目的に制定されたものです。高齢化が進む現代社会において、さまざまな課題に直面する高齢者も少なくありません。国際高齢者デーは、そうした課題に目を向け、解決策を考えるための重要な機会でもあります。

●高齢者の多様性を知る

「高齢者」という名称で一括りにされがちですが、実際には一人ひとり異なる人生を歩んできた、個性豊かな人々です。健康状態も、経済状況も、社会との関わり方も様々です。

国際高齢者デーは、こうした高齢者の多様性を認識し、それぞれのニーズに合わせた支援や配慮が重要であることを再認識する機会です。例えば、元気でアクティブな高齢者が活躍できる場を増やす一方で、介護や医療を必要とする高齢者が安心して暮らせる環境を整えることも不可欠です。



●私たちにできること

コミュニケーションをとる

家族や近隣の身近な高齢者と積極的にコミュニケーションをとりましょう。「最近どうですか？」と声をかけるだけでも、孤立を防ぐ第一歩になります。高齢者の話に耳を傾け、彼らの経験や知恵から学ぶ姿勢を持つことで、世代を超えた理解と信頼関係が築けます。

デジタル・デバインド(情報格差)を埋める手助けをする

人によっては、スマートフォンやパソコンは難しいと感じることがあるかもしれません。「どうすればいいかわからない」と困っている高齢者がいたら、簡単な操作方法などを一緒に操作しながら教えることもできます。また、メモを作ったりすることで、彼らがデジタル社会から取り残されないようサポートを行うことができます。

困ったことを相談できる窓口を紹介する(地域包括支援センター)

地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合機関です。

倉吉市では、市内に5か所の地域包括支援センターを設置しています。それぞれのセンターでは、介護・福祉・保健の専門職員(保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー)が皆様を支えます。

そのほか、家族介護者の方の介護離職防止の相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

上灘・成徳	倉吉中央地域包括支援センター	倉吉市宮川町129	0858-22-6102
-------	----------------	-----------	--------------

高齢者が直面する課題は、他人事ではありません。それは、私たちがやがて直面するかもしれない、社会全体で解決すべき共通課題です。私たち一人ひとりの行動が、すべての世代が尊重され、安心して暮らせる社会を築く大きな力となります。

国際高齢者デーをきっかけに、まずは身近な高齢者に、声をかけることから始めてみませんか？